

謹 賀 新 年



東京都大田区蒲田
5の10の2
全日本港湾労働組合機関紙
(毎月1日発行)
一部20円(組合員の購読料は組合費の中に含む)
発行責任者
松永英樹



新年あいさつ
中央執行委員長 真島 勝重

新年明けましておめでとございます。組合員並びのご家族の皆様には、お健やかに新年を迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。

私自身、昨年の定期全国大会において中央執行委員長に選出され、初めての新年、そして初めての春闘を迎えます。現在、日本の港湾を取り巻く環境は、急速に変化しています。我が国の貿易において、海外との設置点である港湾で働く労働者とそれを国内輸送する運輸労働者は、経済・物流の中心的役割を担っています。

昨今、将来的な労働力不足と叫ばれていますが、日本の若年層労働者が皆無になるわけではありません。また、単に外国人だから良いとか悪いとかの議論ではなく、外国人技能実習生に対する地域最賃割れにみられる労働法制不適用などあらゆる側面から分析し、労働者としての地位を確立するための運動を構築しなければなりません。私たちは魅力ある港湾労働を基軸として、誇りをもって、次の世代につなげる労働運動を展開していかねばならないことを新年にあたっての決意として述べさせていただきます。

不平等条約と言われた日米修好通商条約で開港五港が決まり、他の四港より一〇年遅れて開港したのが、私が育った新潟港で、今年が一五〇周年となります。当時の開港五港で近代国際貿易が始まったことを考えれば、現在は国際戦略港湾五港、国際拠点港湾一八港を含めた一〇〇港以上が国際貿易を行っています。ここで働く多くの港湾労働者の将来的不安を払拭し、安心・安定的な環境を作り上げていくことが全港湾の重要な方針です。

一般派遣制度や外国人技能実習制度など、港湾の分野においては一定の歯止めがかかっ

ている状態ですが、魅力ある産業として確立できなければ必然として労働力不足は深刻な問題となってきます。関係する労使が真に議論を積み重ねる中で、日本全体の港湾像、そして港湾労働者の将来像が確立されるはず

です。二〇一九年の干支は猪で、正確には己亥です。猪の肉には万病を防ぐ力があると昔から言われており、亥年は無病息災の意味もある年です。また、亥が十二支で最後になった理由が、実は最初に到着したものの、猪突猛进でご神所をまっすぐ駆け抜けてしまい、引き返したところには他の動物に後れを取って十二番目になったとか。

今年は、政治においても統一地方選挙と参議院選挙が控えています。今の政権は本当に一般国民の方を向いているでしょうか。残念ながら、平和の問題、経済の課題や税金の使い方など、国民主権とはかけ離れた政治となっています。私の一票で変わるわけがないとよく言われますが、より多くの国民の考えを届かせるためには、多くの方が選挙に行ってください。意思表示を明確にするしかありません。現行の国政選挙では半分程度しか投票へ行かない中で、その投票行為の中の一位を取ればいいということ、選挙区で有権者の二割程度の得票を得れば良いだけで国民全体の考えを真にきく制度とは言えません。これらを打破するために、私たち一人一人が真剣に考え、選挙で一票を投じなければなりません。組合員、執行部が一丸となって活発な議論を展開し、決してぶれることなく、全港湾の歴史と伝統を継承し、発展していくよう、本年もよろしく願っています。

